

今号は宅配事業特集です。福島北支部・南支部に取材にお伺いしました。

注文書の回収率が不調

今週から注文書の回収が開始しました。今週注文書を回収する商品案内には商品画像が掲載されておらず、OCR注文書には商品名がなく白紙、アイテム数も150しか掲載されていなかったということもあって、ここまでの回収率は6割程度にとどまっており、震災前の平均回収率9割に遠く及びません。

回収率が低くなる要因はもうひとつあります。組合員がエリアから“消えていく”という現実です。福島北支部・南支部が受け持つエリアは内陸部に位置するため津波の被害は免れましたが、震災と原発事故の二重苦が重くのしかかっています。



商品画像のない商品案内

白紙のOCR注文書

組合員が消えていく——震災の後遺症で

山を切り開いて造成された住宅地・あさひ台は、真智子さんにとって、新人時代に担当していた思い出のコース。震災後、組合員さんの安否確認のためにトラックを走らせていた菅野真智子さんは、ある地点で思わず目を疑いました。いつもの道が、組合員さんの家が、まったく姿を変えてしまっていたからです。





5日には、この住宅地の草創期から住んでいた組合員のMさんが、住み続けられなくなった自宅の片づけをしている姿に遭遇しました。

Mさんのお宅は平屋部分の土台が崩壊し、徐々にずり落ちているのです。

郡山に住む息子夫婦を頼ることにしたので、生協を脱退すると告げられました。

組合員が消えていく——放射能の影響を懸念して

これと対照的だったのが南光台。新築の多い家並みはほぼ無傷でした。

しかし、ここでも組合員が“消えて”いました。小さい子どもへの放射能影響を懸念し、疎開する人たちです。



↑ 母子連れでにぎわっていた公園に人影がない



下を向いてはいられない

状況は困難。しかし、福島北支部・南支部統括支部長の菅野弘樹さんは決して下を向いていませんでした。

今週から注文書を提出してもらえるように組合員への電話掛けを続けています。

対応策を考えるために、店の価格調査もしてきました。風評被害により県内産野菜が値崩れし、宅配は割高になってしまっていることがわかったので、生協の得意分野である冷凍食品を積極的に提案していこうと思っています。

